

# 第1回ESG金融懇談会資料

平成30年1月10日

日本証券業協会

# I 証券業界の環境問題に関する取組み

1. 2013年度以降の証券業界の環境問題に関する行動計画(抄)
2. 2016年度の証券業界における電力使用量等及び環境問題への取組みに関する調査結果(抄)

# 1. 2013年度以降の証券業界の環境問題に関する 行動計画について(抄)

2013年3月、日証協において、「2013年度以降の証券業界の環境問題に関する行動計画」を制定。本行動計画の項目等は以下のとおり。

## ① 証券業を通じた取組み

- ✓ 環境問題に配慮した企業に対する投資を促進する金融商品の開発及び提供に努め、投資家及び社会全体の環境問題に対する取組みのすそ野拡大並びに意識の高揚に寄与する。

## ② 地球温暖化対策

## ③ 循環型経済社会の構築

## ④ 環境保護活動

## ⑤ 啓発活動及び社内教育等

## ⑥ 積極的な情報発信

## ⑦ 環境関連法規等の遵守

## ⑧ 数値目標の設定

- ✓ 会員証券会社の事業者全体の床面積1㎡あたりの電力使用量(電力使用量の原単位)を2009年度比で2020年度において10%以上削減し、2030年度において20%以上削減することとするが、これまでの削減数値実績を考慮し、削減に最大限努めるものとする。

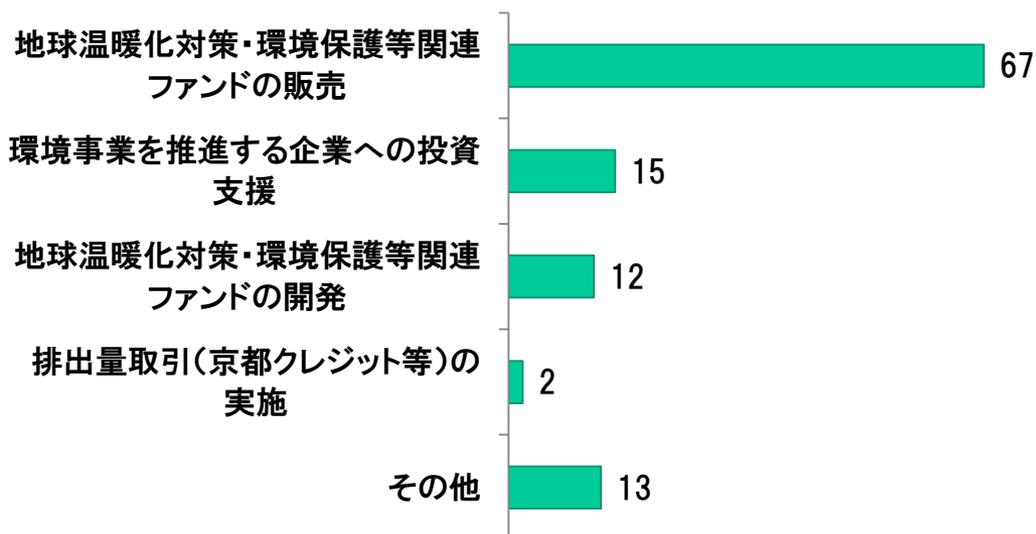
## ⑨ 2013年度の行動計画の検証

## ⑩ 担当責任者等の設置・届出

## 2. 2016年度の証券業界における電力使用量等及び環境問題への取組みに関する調査結果(抄)

「2013年度以降の証券業界の環境問題に関する行動計画」の取組みの実情を把握するため、2016年度の取組みについてアンケートを実施。

### 証券業を通じた取組みについて



- 調査対象会員255社のうち、環境への対応に優れた企業に対する投資を促進する金融商品(エコファンド等)の開発・提供等を行っている会員は80社(31.4%、前回調査76社、30.4%)。
- 同会員における実施状況は左記のグラフのとおり。「地球温暖化対策・環境保護等関連ファンドの販売」(67社)が最も多かった。

## Ⅱ 証券業界のSDGs推進の取組み(平成29年7月～)

1. 証券業界がSDGsに取り組む意義・狙い
2. 証券業界におけるSDGs推進に向けた取組み
3. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会等
4. グリーンボンドセミナーの様相
5. アジア証券人フォーラム(ASF)年次総会の様相
6. 日本証券サミットの開催について

## 意義

- 証券業のビジネスであるESG投資やインパクト・インベストメント等の促進を通じて、SDGs達成に向けた資金の供給に貢献。
- 資本市場を経由した貢献は、他の産業や個人への波及効果が極めて高く、さらにグローバルな活動となるためSDGsの幅広い目標達成への貢献に資する。

## 狙い

- 経営にSDGsを取り込むことにより、協会員の役職員が資本市場や証券業界の社会的意義を自覚することに繋がり、仕事へのモチベーション向上に寄与する。
- その結果、生産性の向上が図られ、自らの企業価値の向上、持続的な発展に繋がる。
- 社会的役割を果たすことは、金融・資本市場の信頼性の向上、ひいては活力ある金融・資本市場の活性化にも繋がる。

## 2. 証券業界におけるSDGs推進に向けた取組み

1. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会等（詳細P7～11）
  - 証券業界全体でSDGsの推進に取り組むため、本協会長の諮問機関として「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」、また下部に具体的検討を行う3つの分科会を設置
  - 「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」においてインパクト・インベストメントやESG投資等について検討
2. 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み（詳細P12～20）
  - ① グリーンボンド・セミナー
  - ② アジア証券人フォーラム（ASF）年次総会
  - ③ 日本証券サミット
3. SDGsの認知度向上に向けた取組み
  - 協会員（証券会社）職員一人ひとりが、SDGsを理解し、自分事化して捉えるよう、「SDGsバッジ」やリーフレットを配付

SDGsバッジ



「SDGsバッジ」は、国際連合が作成したアイコン（17の目標それぞれを17色で表したアイコン）をバッジにしたものです。

### 3. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会等

#### 目的

SDGsで掲げられている社会的な課題に積極的に取り組んでいくため、本協会会長の諮問機関として『証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会』を設置(平成29年9月19日)

証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会  
座長: 日本証券業協会会長 / 構成: 有識者及び協会員

#### 貧困、飢餓をなくし地球環境を守る 分科会

- インパクト・インベストメント(ワクチン債、ウオーターボンド、グリーンボンド等の組成・販売など)やESG投資など
- さらに貢献できる可能性について検討

#### 働き方改革そして 女性活躍支援分科会

- 生産性の向上や働きがいのある職場環境の整備、女性雇用の推進、女性管理職の育成など
- 証券業界における生産的な雇用とディーセント・ワークの達成について検討

#### 社会的弱者への教育支援に関する 分科会

- 父子家庭、母子家庭、両親のいない子供等への資金援助、ボランティアなどについて
- さらに具体的な活動について検討

### 3. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会等



#### 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会メンバー

##### 座長

鈴木 茂晴（日本証券業協会 会長）

##### 会員委員

安藤 敏行（安藤証券 代表取締役社長）

石井 登（立花証券 代表取締役社長）

石田 建昭（東海東京証券 代表取締役会長CEO）

出田 信行（大熊本証券 代表取締役社長）

今泉 泰彦（みずほ証券 取締役会長）

北尾 吉孝（SBI証券 代表取締役会長）

久保 哲也（SMB C日興証券 代表取締役会長）

斎藤 聖美（ジェイ・ボンド東短証券 代表取締役社長）

新芝 宏之（岡三証券グループ 代表取締役社長）

杉崎 重光（ゴールドマン・サックス証券 副会長）

田代 桂子（大和証券 専務取締役）

豊泉 俊郎（三菱UFJモルガン・スタンレー証券 副会長）

鳥海智絵（野村ホールディングス 執行役員）

中村善二（UBS証券 代表取締役社長）

橋本幸子（モルガン・スタンレー-MUFG証券 取締役）

林礼子（メリルリンチ日本証券 取締役）

半場裕章（東洋証券 代表取締役会長）

日比野隆司（大和証券 代表取締役会長）

フィリップ・アガリル（BNPパリバ証券 代表取締役会長）

松本大（マネックス証券 取締役社長）

森田英子（BNPパリバ証券 取締役）

森田敏夫（野村証券 取締役兼代表執行役社長）

吉原康夫（高木証券 代表取締役会長）

##### 公益委員

川村 雄介（大和総研 副理事長）

白河 桃子（相模女子大学客員教授 ジャーナリスト）

以上 26 名（五十音順・敬称略）

#### 貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会メンバー

##### 主査

荻野明彦（大和証券 常務執行役員）

##### 委員

石川尚志（いちよし証券 取締役）

植木博士（ゴールドマン・サックス証券 政府関連担当部長）

魚津亨（水戸証券 取締役副社長）

小川裕之（SBI証券 取締役経営企画部長）

沖津嘉昭（岩井コスモ証券 代表取締役会長）

金森裕三（みずほ証券 常務執行役員プロダクト本部長）

河口真理子（大和総研主席研究員）

後藤匡洋（野村証券 執行役員）

朔慶典（UBS証券 上席執行役員）

高橋義信（東海東京証券 執行役員）

泊健一（徳島合同証券 代表取締役社長）

豊永聡（岡三証券 上席執行役員）

中村春雄（三菱UFJモルガン・スタンレー証券 副社長）

野津和博（SMBC日興証券 執行役員）

林礼子（メリルリンチ日本証券 取締役）

深澤歩（BNPパリバ証券 グローバルマーケット統括本部長）

萬代克樹（マネックス証券 取締役常務執行役員）

森田亮平（バークレイズ証券 シンジケーション本部長）

和里田聰（松井証券 常務取締役）

以上 20 名（五十音順・敬称略）

### 3. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会等

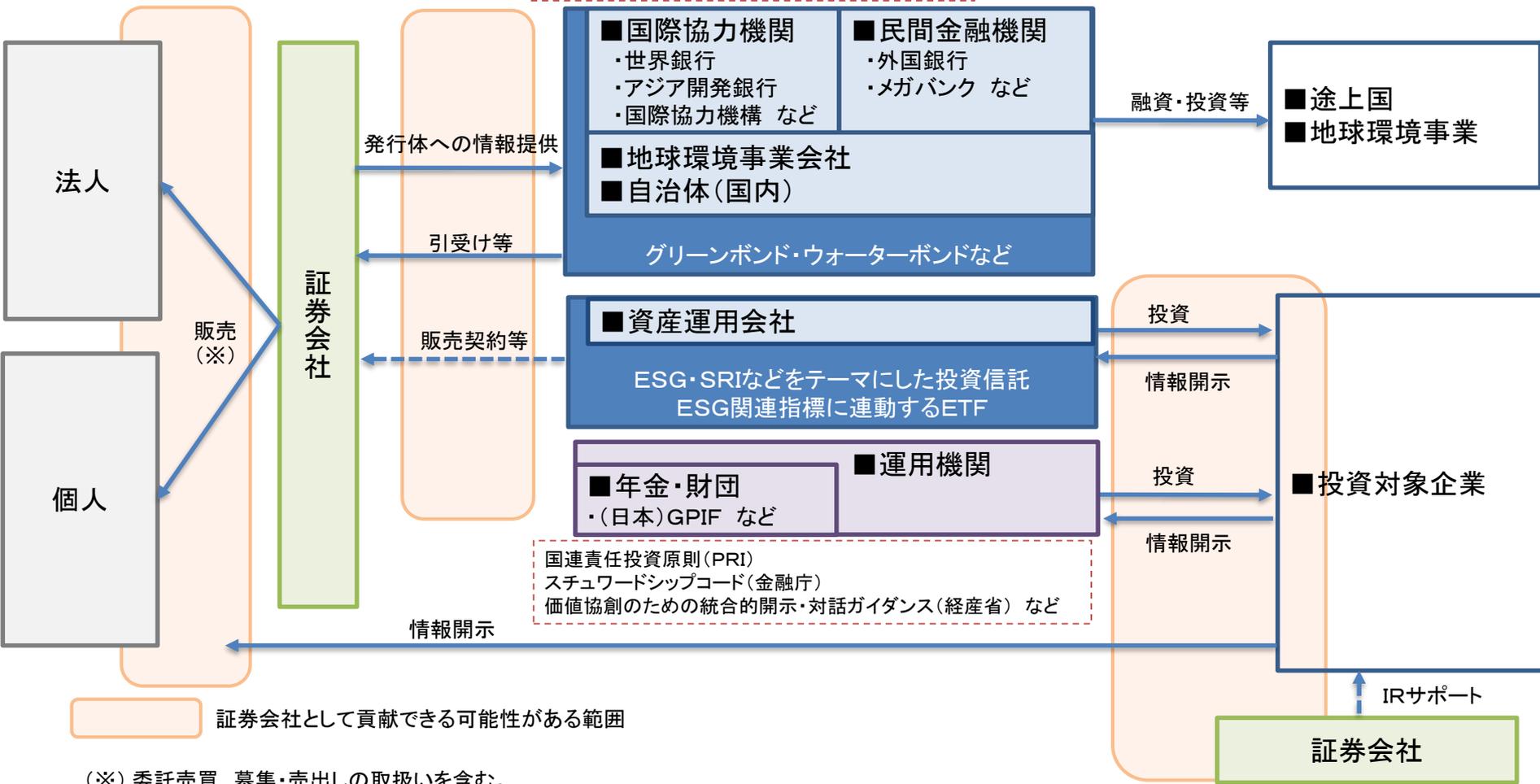
年月日	会議名・議事
平成29年 10月10日(火)	<p>第1回「証券業界におけるSDGs推進に関する懇談会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰も置き去りにしない！世界の共通言語 SDGsを自分事化して、世界を変革する</li> </ul> <p>【ゲストスピーカー】国連広報センター所長 根本かおる氏</p>
11月1日(水)	<p><b>第1回「<u>貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会</u>」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ESG投資、グリーンボンド、ソーシャルボンドの動向等について</li> </ul> <p>1)持続可能な金融の最新動向 ICMA(国際資本市場協会) 会長 ルネ・カーセンティ氏</p> <p>2)低炭素経済への移行へ向けたグリーンファイナンス・投資の拡大 OECD(経済協力開発機構) 事務次長 河野 正道 氏</p>
12月12日(火)	<p><b>第2回「<u>貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会</u>」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsゴールに関連する途上国の課題とJICAの取組み</li> </ul> <p>【ゲストスピーカー】独立行政法人国際協力機構 企画部 参事役 小田亜紀子氏</p>
12月18日(月)	<p>第1回「働き方改革そして女性活躍推進分科会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー会社による取組事例の紹介 (野村証券・大和証券)</li> <li>・全社へのアンケート調査(案)について</li> </ul>
12月20日(水)	<p>第1回「社会的弱者への教育支援に関する分科会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の子供の貧困</li> </ul> <p>【ゲストスピーカー】首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 教授 阿部彩氏</p>

# 3. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会等

第2回「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」資料

## 社会的課題解決に向けた証券会社の取組みと役割

ICMAグリーンボンド原則、環境省グリーンボンドガイドラインなど



証券会社として貢献できる可能性がある範囲

(※) 委託売買、募集・売出しの取扱いを含む。

## 4. グリーンボンドセミナーの様様

1) 主催機関	国際資本市場協会 (ICMA)
2) 共催機関	日本証券業協会
3) 開催日時	11月2日 (木) 9時30分-17時30分
4) 会場	東京 虎ノ門ヒルズ 森タワー5F ホールA
5) 参加者	アジアの発行会社、銀行、証券会社、(機関) 投資家、その他の関係機関、報道機関等 約400名が参加
6) 後援	Asia Pacific Loan Market Association、投資信託協会、日本投資顧問業協会、日本取引所グループ
7) スポンサー	BNPパリバ、大和証券グループ、欧州投資銀行、みずほ証券、ムーディーズ・インベスターズ・サービス、野村グループ
8) メディアパートナー	Environmental Finance、Responsible Investor

### 議論のポイント

- ▶ 世界におけるグリーンボンド・社会貢献債の発行は増加傾向
- ▶ 中国では2015年～2016年に原則を制定、その後発行が急増している
- ▶ 日本では経済規模に対してまだ市場規模は小さい
  - 2016年12月に東京都が環境サポーター債を発行(100億円相当)
  - 2017年に東京グリーンボンド発行
    - 10月 機関投資家向け 100億円
    - 12月 個人投資家向け 100億円相当
- ▶ セミナー前日に戸田建設が12月頃発行予定と公表(一般事業法人では初)
  - 100億円 五島列島に作る洋上風力発電施設建設
- ▶ 原則・ガイドラインの発表により、グリーンボンド・社会貢献債発行における分かりやすさ、透明性、取り組みやすさ(コストと事務負担軽減)に資する
- ▶ 課題:発行体における財務部門とCSR部門との断絶、トップダウンの必要性

# 4. グリーンボンドセミナーの様様

## 1. 開会／閉会挨拶等

- ▶ 歓迎・開会挨拶：日本証券業協会 会長 鈴木 茂晴
- ▶ 歓迎基調講演／閉会挨拶：  
国際資本市場協会(ICMA) チーフ・エグゼクティブ マーティン・シェック
- ▶ 閉会基調講演：  
マレーシア証券委員会 コーポレートファイナンス&インベストメンツ マネージング・ディレクター / ASEAN資本市場フォーラム グリーンファイナンス・ワーキンググループ 共同議長 ユージーン・ウォン 氏

## 2. 基調講演

- ▶ 東京都知事 小池 百合子 氏
- ▶ 環境省 大臣官房 環境経済課 課長 奥山 祐矢 氏
- ▶ 上海グリーンファイナンス委員会 事務局長 コン・ウェイ 氏
- ▶ 経済協力開発機構(OECD) 事務次長 河野 正道 氏
- ▶ アジア開発銀行 持続的開発・気候変動局 局次長 兼 CCO ネシム・ジェイ・アフマド 氏



# 4. グリーンボンドセミナーの様相

## 3. パネルディスカッション

テーマ	モデレーター／パネリスト
GBP(グリーンボンド原則)ー最近の発展と2017年～2018年の展望	モデレーター: 国際資本市場協会(ICMA) 市場慣行及び規制政策担当ディレクター ピーター・ムンロ パネリスト: メリルリンチ日本証券 取締役 副会長 林 礼子 氏 みずほ証券 プロダクツ本部 シニアプライマリーアナリスト 香月 康伸 氏 BNPパリバ サステナブル・キャピタル・マーケット ヘッド ステファニー・スファキアノス 氏 三菱東京UFJ銀行 ストラクチャードファイナンス部 プロジェクト環境室 室長 山崎 周 氏 Mirova シニア・ポートフォリオ・マネージャー クリス・ウィグレイ 氏
日本市場ー実績と展望	モデレーター: 世界銀行 財務局 駐日代表 有馬 良行 氏 パネリスト: 日本政策投資銀行 財務部長 加藤 裕幸 氏 日本生命保険 取締役 執行役員 大関 洋 氏 モルガン・スタンレーMUFG証券 資本市場統括本部 債券資本市場部長 マネージング ディレクター 荻原 正典 氏 大和証券 デッド・キャピタルマーケット部 海外オリジネーション課 兼 オリジネーション課 次長 徳田 健 氏

# 4. グリーンボンドセミナーの様相

グリーンボンド市場の将来のダイナミズム

モデレーター: 気候債券イニシアティブ CEO兼共同創業者 ショーン・キドニー 氏  
パネリスト:  
クレディ・アグリコル・CIB クライメイト&グリーンボンド・リサーチ ヘッド  
エルワン・クリヘレット 氏  
大和総研 調査本部 主席研究員 / JSIF 代表理事 河口 真理子 氏  
国際金融公社(IFC) フィナンシャル・インスティテューション・グループ  
チーフ・インベストメント・オフィサー ジャンマリー・マッセ 氏  
欧州投資銀行(EIB) ユーロ・ファンディング 副ヘッド アルド・ロマーニ 氏  
中国グリーンファイナンス委員会 副事務局長 ワン・ヤオ 氏

社会貢献債及びサステナビリティ債市場の潮流

モデレーター: 国際金融公社(IFC) インベスター・リレーションズ・ヘッド  
エッセー・デニス・オダロ 氏  
パネリスト:  
ノルデア サステナブル・ファイナンス ヘッド サーシャ・ベスリック 氏  
国際金融ファシリティ(IFFIm) 理事長 ルネ・カーセンティ 氏  
PRI 事務局 ジャパンヘッド グローバルネットワーク&アウトリーチ 森澤 充世 氏  
国際協力機構(JICA) 財務部 市場資金課 課長 田中 賢子 氏  
野村證券 デット・キャピタル・マーケット部 ESG債担当部長 シニアオフィサー  
相原 和之 氏

外部評価ーアジアにおける現行実務及び市場の見通し

モデレーター: 国際資本市場協会(ICMA) アジア事務所代表 ムスターク・カパン 氏  
パネリスト:  
日本総合研究所 理事 創発戦略センター/ESGリサーチセンター 足達 英一郎 氏  
ムーディーズ アジア大洋州コーポレート・パブリック・プロジェクト&インフラストラクチャー・ファイナンス マネージング・ディレクター ブライアン・ケーヒル 氏  
サステイナリティクス 機関投資家関係担当取締役 ジェームズ・ホリラック 氏  
新日本有限監査法人 気候変動・サステイナビリティサービス ヘザー・マクリシュ 氏

## 5. アジア証券人フォーラム (ASF) 年次総会の模様

1) 開催期間	平成29年11月26日(日)~28日(火)
2) 会場	東京 ホテルニューオータニ
3) 会議テーマ	Ways for building a sustainable future (持続可能な未来を構築する)

### 4) 総会の概要

- ◆ 今回の総会には、アジア(2機関)、オーストラリア、中国、台湾、香港、インド(2機関)、インドネシア、イラン、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ニュージーランド、フィリピン、タイ(2機関)、トルコ、ベトナム(2機関)の17か国・地域21機関から49名が出席した。
- ◆ 越智 隆雄 金融担当副大臣、日本取引所グループの清田 瞭 CEO及び日本銀行の黒田 東彦 総裁が基調講演を行い、アジア開発銀行研究所の吉野 直行 所長がアジアの経済・金融資本市場を概観する基調プレゼンテーションを行った。
- ◆ パネルディスカッションには、ASFメンバーのほか関係業界団体(国際銀行協会(IBA)、グローバル金融市場協会(GFMA)、米国証券業金融市場協会(SIFMA))、国連広報センター、投資家教育国際フォーラム(IFIE)、国内のシンクタンク、フィンテック企業、機関投資家がパネリストとして参加した。
- ◆ パネルディスカッションでは、「持続可能な経済・社会に向けて証券市場が果たすべき役割」についても意見交換が行われた。同パネルディスカッションの概要は次頁のとおり。

# 5. アジア証券人フォーラム(ASF)年次総会の模様 (SDGs関連)

平成29年11月28日(火)

パネルディスカッションⅡ：アジアの未来：持続可能な成長への証券市場の貢献  
モデレーター：川村 雄介 自主規制会議委員／大和総研 副理事長  
パネリスト： 根本 かおる 国連広報センター 所長  
ムスターク・カパシ ICMA アジア太平洋地域事務所 事務局長  
チャンジオン・オウヤン SAC(中国) 副会長  
ナリンダー・ワドゥワ ANMI(インド) 理事

## 主な内容

- 国連では「持続可能な開発目標(SDGs)を採択し、2030年までの達成に向け、誰も置き去りにしないことをスローガンに加盟国の取組みを求めている。これは途上国に限られた問題ではなく、すべての国が取組むべき課題であると同時に企業も含むマルチステークホルダーの全員参加型での推進が求められる。金融・証券界が社会的課題の解決を資金の面から協力に下支えしていくことを期待している。
- 資本市場は環境や社会的課題に対する資金提供という側面でこれに貢献できる。ICMAは、グリーンボンドやソーシャルボンドへの投資を促進するには、発行体・投資家が受け入れられる基準・原則を定めることが不可欠であると考え。年金基金等機関投資家の社会的責任に対する関心も高まっており、ESGに関連したビジネスは新しい成長の源泉や長期投資の機会となりつつある。
- 経済成長と社会・環境への配慮の両立のため、中国ではベンチャー・中小企業支援、グリーンボンドの発行を含むグリーン金融システムの構築、2020年までの貧困脱却、投資者教育・保護政策を推進している。
- インドは、国連のSDGsに貢献するとともに、それに先駆けて経済成長、社会包摂、環境保護の観点から国内政策を実施してきた。PMJDY(世界最大規模の金融包摂プログラム)、Skill India(4億人の能力開発イニシアチブ)、SBA(クリーンインド計画)等のプログラムを実施し、雇用創出・環境保全にも野心的な目標を立てて取り組んでいる。

## 1. 開催趣旨

本協会では2008年から、日本への投資、海外企業の日本市場への上場、海外証券会社・金融機関の日本市場への進出を促進することを主な目的として、「日本証券サミット」の開催等日本市場の海外向けPRのための活動を実施している。

平成29年度は、日本の経済、証券市場について海外の投資家・市場関係者の理解を深めることを念頭に、米国ニューヨークにおいて、第10回日本証券サミットを開催する。

## 2. 第10回日本証券サミット

- 1) 開催時期: 2018年2月7日(水)
- 2) 開催都市: 米国 ニューヨーク
- 3) 取り上げるトピック
  - 日本経済の展望
    - ✓ 経済見通し
    - ✓ 財政政策・国債市場
    - ✓ 金融政策
    - ✓ 成長戦略
  - 資本市場の役割と機能向上のための方策
    - ✓ コーポレートガバナンス改革の実行性確保
    - ✓ 資本効率改善に向けた取組み
    - ✓ 企業の社会的責任
    - ✓ ESG投資、経済・社会のサステナビリティへの貢献 等

## 6. 日本証券サミットの開催について



### 4) 主な参加者

現地の証券会社・金融機関、機関投資家、ファンド・マネージャー、会計・法律専門家等証券市場関係者、政府当局、情報ベンダー、メディア、大学・シンクタンク等の研究者

### 5) 共催／協賛機関

- 現地の証券業協会（米国証券業金融市場協会（SIFMA））
- 日本取引所グループ
- 投資信託協会
- その他関係機関、情報ベンダー等